

## 資料一 7 伝承手法実施例

天竜川上流域で実施した伝承事例を以下にまとめる。個々の災害教訓伝承手法の詳細な内容として以下の項目を整理する。

- (1) 実施概要: 実施主体 / テーマ / キーワード / 実施内容 / 訴求対象 / 参加人数・属性 / 実施日時 / 実施場所 / 伝承の素材(内容) / 連携団体 / 期待した効果
- (2) 実施に向けた準備: 地域への働きかけ / 参加者の募集方法 / 企画・準備にあたり留意した点、工夫した箇所
- (3) 実施内容詳細: 当日スケジュール・授業内容 / 状況写真 / 配布資料 / マスコミ報道紹介
- (4) 実施結果とりまとめ: 主催者・運営スタッフによるふりかえり / 今後の方針について

### 7-1. 災害教訓伝承授業(伊那小学校)

#### (1) 実施概要

実施主体	伊那小学校、天竜川上流河川事務所
テーマ	地域の過去の災害について学習し、雨の恐ろしさについて考える学習の実施
キーワード	既往災害、災害体験談、災害対策、防災マップ
実施内容	<p>【小学3年生、4年生対象】</p> <p>① 既存の総合学習のテーマの中に「治水」をテーマにした内容を盛り込み水の大切さ、恐ろしさについて学習</p> <p>【小学5年生対象】</p> <p>② 教科学習の社会科の一環として「防災と社会」をテーマに全3回の授業を実施し、過去の災害と災害を防ぐ取り組みについて学習</p> <p>【小学6年生対象】</p> <p>③ 総合学習と教科学習の時間を使って、「川とのかかわりあい」について考える中で、過去の災害や地域の川との関わりあい方を学び、これから自分たちの川とのかかわりあい方を学習</p>
訴求対象	小学生3年生～6年生
参加人数・属性	3年生～6年生 各学年1組 約30名程度
実施日時	2008年11月～2009年2月
実施場所	伊那小学校、災害伝承現場
伝承の素材(内容)	災害体験談、実体験(平成18年7月豪雨災害)、災害伝承ビデオ、現地見学会、激特現場、三峰川(霞堤・聖牛)、理兵衛堤防
連携団体	三峰川みらい会議 織井さん(伝承検討会委員)、 災害体験者・元高遠支所長 伊東さん(昨年度の災害インタビュー対象者)、 伊那市役所 山口さん(市の防災担当)
期待した効果	低学年:「無関心」→「気づき」 高学年:「無関心」→「気づき」→「正しい理解」

## (2)実施に向けた準備

地域への働きかけ	特になし
参加者の募集方法	特になし
企画の準備にあたり留意した点、工夫した箇所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合学習を活用した授業を行う場合は、出来るだけクラスの担任教師に授業の進行をお願いするとともに、総合学習全体の流れを壊さないように実施前に授業風景を確認し、実施計画を立てた</li> <li>・ 教科学習の場合は全体の流れを先に考え、それぞれの回で伝えたいこと、最終的な目標を明確にした</li> <li>・ 事務局で一方的に授業内容を押し付けるのではなく、先生と調整し、既存の授業内容の中で行えるように計画を立てた</li> <li>・ 教室の授業だけではなく、現場で実物を確認したり、人の話を聞いたりするなど、子ども達が興味を持ちやすい内容とした</li> </ul>

## (3)実施内容詳細

学年	テーマおよび達成すべき目標
3年生	<p>「川の成り立ち」</p> <p>川の成り立ちを学んでいく中で、<u>川の恐ろしい一面や川を治めるために行われている取り組みについて学習する。</u></p>
4年生	<p>「農業と水」</p> <p>農村集落復興(生徒が自分たちで稲作を実施)を行う中で、<u>水の大切さや人々と水とのたたかひについても学習を行い、「治水」の大切さについて考える。</u></p>
5年生	<p>「防災と社会」</p> <p>地域の過去の災害と災害を防ぐために行われている取り組みについて学習するとともに、<u>いつ災害が起こるかもしれないということを認識し、その時自分たちはどうすればいいのかについて考える。</u></p>
6年生	<p>「川と人とのかかわり」</p> <p>今後川とどのように関わっていくかを考える中で、過去の川での災害について着目し、地域で災害の爪跡が残っている場所や川筋の変遷について学ぶ。また<u>災害を防ぐために行われている取り組みや、人々の川との関わりについて調べる。</u></p>

### 【3年生】

テーマ	<b>「川の成り立ち」</b> 川の成り立ちを学んでいく中で、 <u>川の恐ろしい一面や川を治めるために行われている取り組みについて学習する。</u>
-----	--

#### ・授業内容

実施日	授業テーマ	実施内容	子ども達の気づき	伝承手法
11/13 (木)	鳥谷川を探る	<ul style="list-style-type: none"> <li>伊那小学校の北側の谷を流れる「鳥谷川」を道沿いに探検。地形、川の流れ、畑作、道路、寺社などを地形図と比べながら色分けする。</li> <li>道沿いに歩く中で働く人や地域の人に声をかけながら疑問に答えてもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「<u>のぞみさん</u>」のお母さんからH17、H18災害の家の前の川の状況を聞き、<u>大変だったことが分かった。</u></li> <li>南箕輪村に入ると川の名前が戸谷（とや）川になる。</li> <li>道路と川の立体交差で川が川の下をもぐっていた。</li> </ul>	現地調査

#### 次に探検したいこと

- 鳥谷川のいける所までいく  
下流の伊那市内で川がどう流れているか？天竜川にどうつながっているか？
- H18災害の時に伊那市街のいつきくんの家（クラスの子）が浸水した、街を調べたい

11/18 (火)	伊那市の方と鳥谷川を巡る	<ul style="list-style-type: none"> <li>前回不思議に思ったことを解決するために、伊那市役所の建設部管理課斉藤係長、加藤係長に同行していただき、鳥谷川を探りながら疑問に思ったことを質問する。</li> <li>鳥谷川の水がなくなるあたりまで探検し、どこから水が来るのか調べる。また地形の変化や畑作の変化と水の流れが関係あるのか考える。</li> <li>鳥谷川の下流はどうなっているのか、天竜川にどのようにつながっているのか調べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>天竜川近くの入船町では「船」と「舟」の漢字が使い分けられていた。</li> <li>鳥谷川にはパイプ、用水路、違う川、湧き水から水が入ってきていて、最終的に天竜川に出ていっている。</li> <li>地名に注目すると分かることがある。</li> <li>川というより水路のよう。</li> <li>今まで水路だと思っていた場所も鳥谷川だと分かった。</li> <li>川と水路の違いは？→川は自然、水路は人工（コンクリート）</li> <li>川の水はどこから？→雨から</li> <li>鳥谷川は牛が流れるような流れはなかったが、どんな時に流れるのか？</li> <li>「いつきくん」の家は2年前の大雨で水につかったが、「たくやくん」の家は水がそんなにきていなかった。場所によって違うのかな？</li> </ul>	現地見学会
--------------	--------------	---	--	-------

#### 次に探検したいこと

- 2年前の7月の大雨で鳥谷川周辺はどうなっていたのか、周りに住んでいる人はその時どうしていたのか、周辺のお宅に聞きとり調査。

11/25 (火) 11/26 (水)	鳥谷川周辺のおうちをまわって2年前の大雨の時の話を聞こう	<ul style="list-style-type: none"> <li>鳥谷川周辺の住宅地図を用意し、鳥谷川周辺のお宅に聞き取り調査</li> <li>班ごとに聞き込みエリアを特定しておき、2人1組になって1軒ごとに聞き込みを行う。</li> <li>ピックアップしたお家に平成16年10月、平成18年7月の豪雨災害の様子を聞き込みする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成18年7月の豪雨災害で浸水したお家は聞き込みをしたエリアの一部の地域である。</li> <li>平成16年10月の災害では、鳥谷川が一部でせき止められて水害につながった。</li> <li>平成18年7月災害と平成16年10月災害では被害のあったエリアが違う。</li> </ul>	聞き込み調査
------------------------------	------------------------------	---	--	--------

次に探検したいこと

- 鳥谷川の下流の状況を知ることができたので、今度は源流まで探検にいき、鳥谷川全域を知る。その上で川と人との関わり方についても三峰川霞堤を見学して学習する

12/18 (木)	鳥谷川の源流を探り、聖牛について学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>鳥谷川沢登りをしながら、鳥谷川の上流と下流の水の様子、川の様子を観察する。</li> <li>水神碑を見に行く。</li> <li>三峰川榛原河川公園で聖牛、堤防、霞堤についてお話を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>川が暴れたとき、護岸が崩れないように現代はコンクリート、昔は蛇籠を用いていた。</li> <li>水神碑があるのは水が大事だからだと分かった。</li> <li>聖牛も霞堤も下流への被害を軽減するために作られていることが分かった。</li> <li>天竜川には色々な川が混ざっている。</li> </ul>	現地見学会
--------------	--------------------	--	--	-------

これからの展開 (実施予定)

- これまでの学習内容を振り返りながら感想文を書いてみよう。

・状況写真

<p>11/18</p>			
<p>鳥谷川の流れを確認</p>		<p>鳥谷川と天竜川の合流点附近まで散策</p>	
			
<p>学習したことを発表</p>		<p>総合学習のまとめ</p>	
<p>11/25</p>			
<p>聞き取りする範囲を確認</p>		<p>聞き取り調査の様子</p>	
			
<p>聞き取り結果を報告</p>		<p>調査結果のとりまとめ</p>	



12/18



鳥谷川の上流の様子を観察



源流まで沢登り



水神碑を見学



聖牛を見学

•配布資料 ※配布資料及び実施計画書については参考資料に掲載

- ① 11月18日 授業資料（鳥谷川周辺地図）
- ② 11月25日 授業資料（鳥谷川ききとりマップ、ききとりカード、H16災害の様子）
- ③ 12月18日 現地見学会スケジュール、授業資料（現地見学会用地図）

## 【4年生】

テーマ	<b>「農業と水」</b> 農村集落復興（生徒が自分たちで稲作を実施）を行う中で、 <u>水の大切さや人々と水とのたたかい</u> についても学習を行い、「治水」の大切さについて考える。
-----	--

### ・授業内容

実施日	授業テーマ	実施内容	子ども達の気づき	伝承手法
総合学習の流れ 農村復興のために自分たちでお米を作る取り組みを行っている。その中で小沢川から水を取水する方法について考え、水温が低いのでどのような工夫をしていくべきかということを学んでいる。今後総合学習の中で「水道」や「利水」についても考える。				

11/10 (金)	利水に関する施設を見に行こう	<ul style="list-style-type: none"> <li>伊那西部第1揚水機場、伊那西部給水栓、西天竜開田記念碑、西天竜円筒分水工、西天竜発電所を見学。</li> <li>「利水」について上伊那地方事務所から説明を受けながら理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>農村を復興するためには利水施設が大切な役割を果たしているんだな。</li> <li>農業には水が大切で、昔の人たちも大切にしてきたんだな。</li> <li>円筒分水工には昔の人たちの思いが込められているんだな。</li> </ul>	現地見学会
--------------	----------------	--	--	-------

次回への導入 お米を作るためには、水をうまく利用するだけではなく、水から田んぼを守る工夫も必要だということが分かったので、どのような取り組みが行われているのか知りたい				
--	--	--	--	--

12/1 (月)	治水に関する施設を見に行こう	<ul style="list-style-type: none"> <li>棚立の碑と押し出し堤防を見学する。</li> <li><u>天竜川で現在行われている激特事業を見学し、天竜川上流河川事務所の方のお話を聞く。</u></li> <li>昔の人が作った<u>理兵衛堤防</u>を見に行く。</li> <li>農業を軸に、水と人とのたたかいについて学習し、<u>「治水」の大切さについて考える。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>昔の人は洪水から田んぼを守るために大変な苦勞をしているんだな。</u></li> <li><u>天竜川は昔から何度も洪水を起こしていて「あばれ天竜」と呼ばれ恐れられていたんだな。</u></li> <li>今でも洪水から地域を守るための取り組みが行われているんだな。</li> </ul>	現地見学会
-------------	----------------	---	--	-------

これからの展開（実施中） 「治水」と「利水」について学んだことを班毎に壁新聞でとりまとめを行う。				
---	--	--	--	--

・状況写真

11/10		
	西天竜開田記念碑にて	西天竜円筒分水工にて
12/ 1		
	天竜川の工事について説明を受ける	柵立の碑についての説明を受ける
		
	石碑を見学	理兵衛堤防を見学

・配布資料 ※配布資料及び実施計画書については参考資料に掲載

- ① 12月1日 授業資料（見学会用資料、激特事業説明資料）



## ・実施イベントのまとめ(3年生・4年生)

### ① 主催者・運営スタッフによるふりかえり

- ・ 準備で工夫した点は、1年間を通して行われている総合学習の中に、どのようにして「災害伝承」の内容を盛り込んでもらうのか、取り入れ方について先生と調整を行ったこと。
- ・ 総合学習の基本的な考え方としては、子ども達の自主性を重要としているので先生が授業内容を誘導せずに、子ども達が気づいたことから授業内容を展開するため、当初計画していたものから何度か変更する場合もあることを念頭においておく必要がある。
- ・ 伝承授業を実施する前に、伝承実施を行いたいクラスの授業の様子やクラスの雰囲気がある程度把握するために総合学習の事前見学を行った。
- ・ 授業の中で子ども達が疑問に思ったことに対しては、文献などを調べるよりも、現地に探しに行ったり、人の話を聞いたりしながら深めることが有効であった。
- ・ 「利水」と「治水」をセットにした現場見学会は水の大切さと恐ろしさの両面を知るという点で効果的であった。

### ② 今後の方針について

- ・ 総合学習の場合は、出来るだけ授業の進行は担任の先生にお任せして、外部講師として授業に参加する、資料の提供を行うなどの関わり方を行うことが有効。
- ・ 子ども達にまず活動をさせて、そこから学習に入っていく必要がある。テーマを与えるのではなく、活動していく中で子ども達に見つけてもらうようにする。
- ・ 授業の後には必ず振り返りの会を設け、授業の中で分かったことや疑問に思ったこと、次回学びたいことを整理しておく。
- ・ 総合学習の場合は一連の授業の中で「災害伝承」に関する内容を行うので、災害伝承授業事態の有効性検証アンケートの実施が難しい可能性がある。その場合は実施前後での効果測定は出来ないが、実施後に感想文を記入させたり、担当の先生へのヒアリングなどで対応する。

## 【5年生】

テーマ	<b>「防災と社会」</b> 地域の過去の災害と災害を防ぐために行われている取り組みについて学習するとともに、いつ災害が起こるかもしれないということを認識し、その時自分たちはどうすればいいのかについて考える。
-----	---

### ・授業内容

実施日	授業テーマ	実施内容	子ども達の気づき	伝承手法
12/19 (金)	天竜川で起こった過去の災害について学ぼう	<ul style="list-style-type: none"> <li>36災、58災、平成18年災の概要について学習ノートを使用して説明。（当時の状況が分かる写真などを用いる）</li> <li><u>災害体験者の方</u>（元高遠支局長・伊東さん、三峰川みらい会議・織井さん）に災害時の状況を話していただき、質問時間を設ける。</li> <li>過去の災害の話聞いて思ったことを感想としてとりまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>天竜川流域は災害の多い地域なんだな。</li> <li><u>水害はおそろしいんだな。</u></li> <li>これからも同じような災害が起こる可能性があるんだな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>過去の災害についての授業</li> <li>災害体験談</li> </ul>

#### 次回への導入

どうして天竜川流域は水害が多いのだろう？水害を防ぐためにどのようなことが行われているのかな？

1/16 (金)	流れる水の働きを考えながら天竜川の変遷を学ぼう	<ul style="list-style-type: none"> <li>地面を流れる水や川の水のはたらきについて学ぶ。</li> <li>川は何故蛇行しているのか、天竜川の写真や洪水時の映像を見ながら考える。</li> <li>水にはどのようなはたらきがあるのか学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水にはものすごい力があるんだな。</li> <li>天竜川は昔から変化していて「あばれ天竜」と呼ばれていたんだな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成18年7月豪雨災害時の映像</li> </ul>
	災害を防ぐために行われている取り組みを学ぼう	<ul style="list-style-type: none"> <li>大水が出ると、川のようにすはどうか説明。</li> <li><u>災害に備えるためにどのようなことが行われているのか、天竜川の激特事業を見学し、天竜川上流河川事務所の方のお話を聞く。</u></li> <li><u>災害を防ぐために整えられてきた堤防について、三峰川の霞提を見学し、古くからの水防工法などについて三峰川みらい会議代表の織井さんから説明していただく。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大水が出ると、川の流が変わって、地域に被害をもたらすんだな。</li> <li><u>昔から災害を防ぐ色々な取り組みが行われているんだな。</u></li> <li>洪水から守るために、色々な方法があるんだな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現場見学会</li> </ul>

#### 次回への導入

今度災害が起きたときに、自分たちにできることはあるかな？

次回までに伊那市防災マップを見て家族で災害時の避難について話し合ってみよう。



2/13 (金)	災害に備えるために自分たちに来ることを考えよう	<ul style="list-style-type: none"><li>・伊那市で災害発生直後に行われている活動について伊那市職員のお話を聞く。</li><li>・<u>災害時にどのように避難すべきか</u>お話を聞く。</li><li>・これまでに学んできたことを振り返りながら、<u>自分達が災害に備えてできることを考え</u>、班ごとに発表する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・<u>災害対応の時は、早く的確な情報が大切なんだな。</u></li><li>・すぐに避難できない人たちを守るために取り組みが大切なんだな。</li><li>・災害時には、多くの人が災害対応しているんだな。</li><li>・<u>大切なことは、自分の身は自分で守るといことなんだな。</u></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・災害対策従事者のお話を聞く</li></ul>
-------------	-------------------------	--	---	--

・状況写真

12/19		
	過去の災害について説明	災害伝承者（織井さん）からのお話
1/16		
	天竜川上流河川事務所からの説明	織井さんからの説明
2/13		
	伊那市役所総務課（山口さん）からの説明	発表の様子

・資料(実施計画書等) ※資料については参考資料に掲載

- ① 12月19日 実施計画書、授業資料（過去の災害について、自由記入用紙、災害体験談記入用紙、三峰川の災害のあとを尋ねてPPT）、事前アンケート
- ② 1月16日 実施計画書、授業資料（流れる水のはたらきについて、災害を防ぐために行われている工事について、災害を防ぐために昔から行われている工法について、平成18年7月豪雨についてPPT）
- ③ 2月13日 実施計画書、授業資料（記録用紙、防災マップ）、事後アンケート、壁新聞



## ・マスコミ報道紹介

- ① 12月19日 伊那ウェブニュース「伊那小授業で体験を聞く」、  
長野日報「親しみある川も一変 伊那小で伝承試験開始・体験談で恐怖実感」
- ② 1月16日 伊那ウェブニュース「伊那小5年秋組 災害現場見学」
- ③ 2月13日 伊那ウェブニュース「伊那小で災害を伝える授業まとめ」

## ・実施イベントのまとめ(5年生)

- ① 主催者・運営スタッフによるふりかえり
  - ・ 総合学習で実施する場合と異なり、主導的に授業の組み立てを行える特長を持つ社会の教科学習で実施を行ったので「防災と社会」をテーマにした授業内容、時間の組み立てともに提案した内容を実施していただくことができた。
  - ・ 教科学習の場合にも、お話を聞いたり、災害の映像や現場を見たりする活動をともなう内容が子ども達に伝わりやすい内容であった。
  - ・ 社会や理科といった教科授業は大きなテーマは決められているが、そのテーマに沿っていれば細かい内容については自由に組み立てることが可能であった。
  - ・ 授業の前に宿題という形で「防災マップ」を配布し、家族で災害時の避難について話し合ってきてもらったが、予想以上に家族と話し合うことが出来ていた。
  - ・ 防災マップを見ることにより、自分たちの住んでいるところに対する危険性への関心が強まった。
- ② 今後の方針について
  - ・ 高学年を対象とした授業の場合では、4回程度の授業の中で防災意識を「無関心」から「災害時の的確な判断・行動」まで変化させる内容が可能である。同じ小学生でも低学年と高学年で同様の内容を行うのではなく、高学年の場合には将来的に地域で活躍してもらうための取っ掛かりとなるような内容とする。
  - ・ 確実な意識の変化をねらう場合には、ある程度授業の組み立てを主導的に行える教科学習も有効である。
  - ・ 宿題という形で家に持ち帰ってもらい、家族で考えてもらうことにより親の防災意識の向上を行うことも想定しておく。
  - ・ 一連の授業での効果を見るために、実施前後の意識の変化をアンケート調査により把握し、最終回ではこれまでの授業をふりかえる成果品を作成する。

## 【6年生】

テーマ	<b>「川と人とのかわり」</b> 今後川とどのように関わっていくかを考える中で、過去の川での災害について着目し、地域で災害の爪跡が残っている場所や川筋の変遷について学ぶ。また災害を防ぐために行われている取り組みや、人々の川との関わりについて調べる。
-----	--

### ・授業内容

実施日	授業テーマ	実施内容	子ども達の気づき	伝承手法
12/4 (木)	天竜川で行われている工事はあそこまでの工事が必要なのか	<ul style="list-style-type: none"> <li>天竜川激特工事現場で工事の様子を見学する。</li> <li>天竜川上流河川事務所伊那出張所の方から工事について説明を受け、<u>何のために工事をしているのか</u>学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>洪水からまちを守るために川底にたまった土砂を運び出し、流れる水の量を多くするとともに護岸工事をして堤防を強くしているんだ。</li> <li><u>これからも同じような災害が起こる可能性があるんだな。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成18年7月豪雨災害</li> <li>現地見学会</li> </ul>

※第2回実施までの間に、過去の災害についてインターネットや書物を用いて調査。

### 次回への導入

今はしっかりとした堤防がつくられているので洪水の被害は少ないが、昔の天竜川はどうだったのかな？

1/20 (火)	あばれ天竜と呼ばれた理由をさぐろう！	<ul style="list-style-type: none"> <li>以前の天竜川（三峰川合流点付近を含む）の流路について、資料より調べ、現在の地図へ書き込みながら「天竜川流路変遷マップ」を作成する。</li> <li>天竜川流路の変遷による村境争いのお話を聞く。</li> <li><u>何度も洪水にあった昔の人の気持ちを考える。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>天竜川は洪水により、流れる場所が変わっていた、だから「あばれ天竜」と呼ばれていたんだな。</li> <li>流路の変遷を証明している地名や水神碑、おはなしが残されているんだな。</li> <li><u>流路が変わることで村どうしの境界争いがおきていたんだ、耕した田畑が大切なものだったんだな。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>洪水や支流の押し出しによる天竜川流路の変遷（あばれ天竜）</li> <li>水神碑</li> <li>天竜川流路の変遷による村境争いの史実</li> </ul>
-------------	--------------------	---	--	---

### 次回への導入

昔の人は、どのようにして水害と闘ってきたんだろうか？

第3回 (未実施)※	災害体験談を聞いて災害時に自分たちに来ることを考えよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>元高遠支所長の伊東さんから過去の災害体験談と平成18年災害の対応や避難や避難所の様子についてお話をしていただく。</li> <li>伊那市の防災マップを見ながら、<u>避難場所やどういうタイミングで避難しなくてはいけないのか</u>確認する</li> <li><u>災害時に自分たちにも出来ることはないか</u>考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の身は自分で守ることが大切なんだな。</li> <li><u>災害時に自分たちにも出来ることがあるんだな。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害伝承者（伊東義人氏）</li> <li>防災マップ</li> </ul>
---------------	-----------------------------	--	---	---

※第3回については当初計画していたが、授業内容について担当教諭と調整した結果、実施しないこととなった。

・状況写真

12/4		
	<p>激特工事の現場見学</p>	<p>伊那出張所長からの説明</p>
1/20		
	<p>平成 18 年災害の説明</p>	<p>授業内容の説明</p>
		
	<p>天竜川の変遷を考える</p>	<p>完成した天竜川変遷マップ</p>

・配布資料 ※配布資料及び実施計画書については参考資料に掲載

- ① 12月4日 実施結果とりまとめ、授業資料（平成18年7月豪雨災害体験談）、事前アンケート
- ② 1月20日 実施計画書、授業資料（天竜川の川筋変遷について、平成18年7月豪雨災害PPT）

## ・実施イベントのまとめ(6年生)

### ① 主催者・運営スタッフによるふりかえり

- ・ 「川との人とのかかわりあい」をテーマに天竜川を総合学習で学ぶ中で子ども達の興味が天竜川の工事へと向かったが、その後は当初想定していたように、過去の災害に興味がいかなかった。そこで社会の教科学習として地域の災害について学ぶ機会を設けることにより、総合学習のフォローを行った。
- ・ 5年生と同様に6年生でも「災害時の判断・行動」について考えてもらうこと目的としていたが、生徒の興味が災害時の防災行動に向かわず、担当教諭の授業方針との調整もうまくいかなかったため、最終目標としていた災害時の行動を考えることを主眼とする授業を行うことができなかった。

### ② 今後の方針について

- ・ 総合学習では子ども達の自主性が重視されるので、授業計画通りに子ども達が興味を持たなかった場合の対処方法を考えておく必要がある。
- ・ 総合学習で行う場合には、先生の方で想定されている授業の流れがあるので、密に連絡を取り合い、少し誘導していただく形で授業を行う必要がある。
- ・ 総合学習で思うような意識の変化が見られない場合には社会や理科といった教科学習を使って理解を深めるなどの工夫が必要である。



## 7-2. 災害教訓伝承講座(上伊那公民館連絡協議会合同研修会)

### (1) 実施概要

実施主体	上伊那公民館連絡協議会、天竜川上流河川事務所
テーマ	研修Ⅰ 「天竜川の災害の歴史と伝承について」 「天竜川流域の災害について」 研修Ⅱ 現地研修「天竜川激特事業」
キーワード	天竜川の歴史と伝承、災害伝承への取り組み、既往災害、天竜川激特事業
実施内容	上伊那地域の公民館連絡協議会合同研修において、公民館長・社会教育指導員・公民館主事を対象に、 ① 「天竜川の災害の歴史と伝承について」をテーマに、災害伝承への取り組みを説明 ② 「天竜川流域の災害について」をテーマに、平成18年7月豪雨災害の説明と天竜川で行われている激特事業について説明 ③ 現在天竜川で行われている「天竜川激特事業」の現場に行って、現地研修会を実施
訴求対象	公民館長・社会教育指導員・公民館主事
参加人数・属性	約50名程度 アンケート回答者数 46人 【性別】男性が78%と男性参加者が多い。 【年齢】60代が46%と最も多く、20代～50代はほぼ同じ割合の参加であった。
実施日時	2009年2月12日 13:30～15:30
実施場所	伊那公民館
伝承素材	災害記録(平成18年7月豪雨災害)、災害対応の実体験(平成18年7月豪雨災害)、災害教訓伝承委員会資料、災害伝承カルタ、災害伝承ビデオ、伊那市おはなしマップ、飯田市おはなしマップ、天竜川の川の碑、三峰川絵図
連携団体	特になし
期待した効果	「無関心」→「気づき」→「正しい理解」

### (2) 実施に向けた準備

地域への働きかけ	特になし
参加者の募集方法	伊那市公民館を通じて上伊那全域の公民館関係者に呼びかけ
企画・準備にあたり留意した点、工夫した箇所	上伊那地域の公民館関係者が集まる会議であったので、今後の展開につながるように伝承ツールを主に使用した内容とした。

### (3) 実施内容詳細

#### ・当日スケジュール

時間	プログラム	内容
13:25	研修Ⅰ「天竜川の災害の歴史と伝承について」	・天竜川上流河川事務所災害教訓伝承活動の紹介 ・公民館で今後実施可能な伝承講座について
13:50	研修Ⅰ「天竜川流域の災害について」	・平成18年豪雨災害について ・天竜川激特事業の概要について
14:40	研修Ⅱ現地研修「天竜川激特事業」	・天竜川中央第1護岸工事現場にて、現在行われている工事について現場を見学しながら参加者に説明を実施
15:10	アンケート実施	

## ・状況写真

	
<p>講師（飯沼さん）による研修会のようす</p>	<p>講師（荒木さん）による研修会のようす</p>
	
<p>激特工事現場での研修会のようす</p>	<p>アンケート実施のようす</p>

## ・配布資料 ※配布資料及び実施計画書については参考資料に掲載

- ① 上伊那公民館連絡協議会合同研修会
- ② 災害教訓伝承について
- ③ 平成 18 年 7 月豪雨災害
- ④ 市町村別被害状況
- ⑤ 事後アンケート
- ⑥ 伊那市に伝わる災害おはなしマップ
- ⑦ 飯田市に伝わる災害おはなしマップ
- ⑧ 天龍川の川の碑
- ⑨ 天竜川通信 vol.15

## ・マスコミ報道紹介

- ・伊那ウェブニュース「上伊那公民館連絡協議会」
- ・長野日報「天竜川流域の災害学ぶ 上伊那公民館連絡協議会・伊那で合同研修」

#### (4)実施イベントのまとめ

##### ① 参加者の感想

- ・ 工事現場の見学会を評価する意見が多かった。

##### ② 主催者・運営スタッフによるふりかえり

- ・ 例示する災害伝承ツールを「公民館として講座の企画にどう利活用できるか」という視点から事例を紹介したが、伝わりにくかった。
- ・ 受付の横に災害教訓伝承委員会の資料や各種の災害伝承ツール、三峰川絵図などを展示したが、もう少し参加者が閲覧できる時間を取る方が効果的であった。
- ・ 災害教訓伝承活動を行っている背景をきちんと説明する必要があった。

##### ③ 今後の方針について

- ・ 公民館の館長や主事に対しての研修会の場合、今後いかに災害伝承講座につながっていくかが重要なポイントになる。そのために、災害伝承を行う必要性と、公民館の講座でそれを行う場合にどのような方法が有効であるか分かるように説明する。
- ・ 公民館の講座ですぐに使えるようなツールを提供し、自由に使っていただけるような仕組みを作る。
- ・ 公民館講座の試行として、3月14日に富県公民館主催の伊那市災害史跡をめぐる歴史見学会を実施する。

##### ○「おはなしマップ」について

- ・ 災害伝承を行うにあたり、「過去の災害」、「災害に関する伝説や昔話」について小冊子にとりまとめ、「おはなしマップ」としてパネル展や防災カフェなどで配布を行った。
- ・ おはなしマップは分かりやすく、目に見えて、手にとってもらえるものをコンセプトとして作成した。
- ・ 効果としては、家族での対話ツール、親子での読み聞かせツールとしての活用が期待できる。また図書館への配布を通じて記録として残すことができる。
- ・ おはなしマップを配布することにより、地域の伝承の一部を知り知識付けが可能である。
- ・ 一度地域へ配布を行うことにより、資料を活用した掘り下げや、別の対象への広がりなどが期待できる。

### 7-3. 天竜川の治水・洪水の伝承遺構見学会

#### (1)実施概要

実施主体	天竜川上流河川事務所
テーマ	「過去の堤防を巡りながら、過去の災害や水防技術を学ぶ」 理兵衛堤防や石神の松をめぐるウォーキングツアーを開催し、実物を見ることにより災害教訓の伝承を行う。
キーワード	現地見学会、伝承遺構、堤防、川の碑、治水
実施内容	天竜川流域に築かれた過去の堤防を見て回り、流域にこれまでどのような災害があり、それに対してどのような取り組みが行われていたのか学習する。また中川村、高森町歴史民俗資料館で専門家から話を聞き、知識の醸成を図る。
訴求対象	行政の水防担当者、地域防災関係者など地域の防災リーダー
参加人数・属性	34名 アンケート回答者数 28人 【性別】男性が96%とほぼ男性参加者であった。 【年齢】40代が40%と最も多く、50代・60代がそれぞれ20%となっており、防災リーダーを対象としたこともあって職場の中堅以上の方が参加されている。 【職業】一般企業に勤めている会社員の方と自治体に努めている公務員の方がそれぞれ半数を占めている。
実施日時	2008年12月5日(金)13:00~16:30
実施場所	天竜川の河原(中川村、豊丘村、高森町)
伝承素材	理兵衛堤防、石神の松、前亡後死三界万霊塔、惣兵衛堤防、伴野堤防、記念碑、あばれ天竜にまつわるおはなしマップ
連携団体	北澤秋司信州大学名誉教授 中川村歴史民俗資料館(伊藤修学芸員:昨年度の災害伝承インタビュー対象者) 高森町歴史民俗資料館(手塚勝昭館長)
期待した効果	「気づき」→「正しい理解」→「的確な判断・行動」

#### (2)実施にあたっての準備

地域への働きかけ	近隣市町村、県建設事務所への参加呼びかけ、 地域の防災リーダーとなり得る関係者への参加呼びかけ
参加者の募集方法	天竜川上流河川事務所HPでの募集 地域ネットワークを利用した防災関係者への参加者募集チラシの配布
企画・準備にあたり留意した点、工夫した箇所	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の防災リーダーを対象に天竜川にまつわる過去の災害や水害への理解を深め、災害時の的確な行動・判断が行えることを目的としており、地域の核となる防災リーダーを基礎調査の段階で把握しておいた。</li> <li>現場見学の説明者として、より専門的な知識を醸成できるように民俗資料館の館長や学芸員の方を選択した。</li> <li>中川村、高森町のみではなく、飯田市まで対象範囲を広げて、今後「1日コース」の開催も可能なように資料を作成した。</li> </ul>



### (3)実施内容詳細

#### ・状況写真

	
中川村歴史民俗資料館伊藤さんのお話	惣兵衛堤防見学
	
高森町歴史民俗資料館での説明	意見交換会

#### ・配布資料 ※配布資料及び実施計画書については参考資料に掲載

- ① 見学会チラシ
- ② あばれ天竜川おはなしマップ
- ③ 理兵衛堤防資料（古地図・写真等）
- ④ 平成18年災害状況説明資料
- ⑤ 参加者募集チラシ

#### ・マスコミ報道紹介

- ・中日新聞「伝えよう災害の教訓 治水の遺構見学会・伊那谷各地の天竜川周辺」
- ・長野日報「理兵衛堤防を視察 治水の知恵を学ぶ 天竜川上流域災害教訓伝承手法検討会」

## (4)実施イベントのまとめ

### ① 参加者の感想

<良かった点>

- ・ 災害体験者の方のお話を聞けた点
- ・ 色々な現場を見て回る事ができた点
- ・ 地域に伝わる伝説・昔話により災害の被害を防ぐことを知ることが出来た

<改善すべき点>

- ・ もう少し1つの場所をゆっくりと理解する方がよいのでは
- ・ 気候の良い時期、天気の良い日にすべきである

### ① 主催者・運営スタッフによるふりかえり

- ・ 現地状況（見学ポイント、ルートなど）の事前確認に思った以上の時間がかかった。
- ・ 雨天という悪条件の中での開催となったが、当初の予定通りのコースで見学会を実施できた。
- ・ バスの移動時間に災害体験談を聞く時間を設けたり、現地見学会終了後に振り返りの会を設け、感想と意見を聞いたことにより、より今回の内容に深まりが出た。
- ・ 現地見学会用の資料と中川村、高森町歴史民俗資料館に所蔵してある資料を併用して利用することにより、幅広い情報が伝承できた。
- ・ おはなしマップのデータを渡すことにより、今回参加した人たちが伝承者となって伝えていってもらう取り組みを行った。

### ② 今後の方針について

- ・ ポイントをしぼったコース設定、訴求対象に合わせたコース内容の設定が必要である。
- ・ 防災意識が「的確な行動・判断」にまでいたったかどうかの確認を取るための工夫。
- ・ 参加者への説明方法（文書、絵、映像など）の選択。
- ・ 雨天時にバスの中からも確認できる見学ポイントを用意しておく。
- ・ 天候を考慮し、雨天時と晴天時で見学ポイントの時間配分を変更する。
- ・ より専門的な内容については、口頭説明だけでは分かりにくいので、会の終了後にも確認できる説明資料を用意しておく。
- ・ 移動の間に伝承ビデオを鑑賞できるようにビデオを再編成する。
- ・ 同じ時期に継続してイベントを実施することにより、地域のイベントとして認識をしてもらう。
- ・ 防災意識を「的確な判断・行動」まで高めるために対象を限定して、もっと専門的な資料（重要水防箇所、ハザードマップ）+現地見学会を行う場合と「正しい理解」までを狙った広く参加者を募集する場合の2パターンも考えられる。

## 7-4. 災害教訓伝承パネル展示

### (1)実施概要

実施主体	日本赤十字社長野県支部飯田市地区、飯田市赤十字奉仕団、天竜川上流河川事務所
テーマ	飯田市で行われるイベントと連動して、過去の災害に対する周知を図るパネル展示を行い、地域防災力向上を図る。
キーワード	36 災害、災害体験談、パネル展示、民話・伝説
実施内容	飯田市で行われている赤十字奉仕団大会、安全大会の防災イベントと連動して、飯田市で被害の多かった 36 災害や過去の災害のパネル展を行い、災害教訓の周知を行う。また飯田市に伝わる災害にまつわるお話を集めた冊子を配布することにより、何度も繰り返し目にすることができ、参加していない人にも伝わるようにした。
訴求対象	行政の水防担当者・地域防災関係者など地域の防災リーダー

#### ①赤十字奉仕団大会

参加人数・属性	赤十字奉仕団大会：700 人 アンケート回答者数 68 人 【性別】赤十字奉仕団として活動している方の発表の場であったので女性が 96%と大半を占めている。 【年齢】60 代が 6 割と最も多く、50 代以上が 95%と参加者の年齢層は高い。 【職業】女性の参加者が多いため半数が主婦である。
実施日時	2008 年 10 月 10 日（金）13:00～17:00
実施場所	飯田市文化会館
伝承素材	災害伝承パネル（36 災害、58 災害、H18 災害）、飯田市おはなしマップ、災害伝承カルタ、天竜川上流河川事務所激特事業の紹介パネル
連携団体	特になし
期待した効果	「気づき」→「正しい理解」

#### ②飯田市安全大会

参加人数・属性	飯田市安全大会：約 300 人 アンケート回答者数 55 人 【性別】男性が 7 割、女性が 3 割と男性参加者が多い。 【年齢】60 代、70 代が 5 割を占めており、参加者の年齢層は高い。20 代、30 代はそれぞれ 1 割以下と少ない。 【職業】会社員、自営業が約半数だが、主婦や無職など職を持っていない人も合わせて 4 割近く参加している。
実施日時	2008 年 12 月 20 日（土）13:30～15:45
実施場所	飯田市文化会館
伝承素材	災害伝承パネル（36 災害、58 災害、H18 災害）、36 災害写真パネル、飯田市おはなしマップ、災害伝承ビデオ、災害伝承カルタ
連携団体	特になし
期待した効果	「気づき」→「正しい理解」

## (2)実施にあたっての準備

地域への働きかけ	飯田市のイベントと連動していたため、飯田市役所による広報のみ
参加者の募集方法	飯田市役所による広報（HP および広報誌）
企画・準備にあたり留意した点、工夫した箇所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 飯田市で被害が多く、地域でも知っている人の多い <b>36 災害の紹介パネル</b>を中心としてパネルの構成を考え、参加者の興味を引く内容とした。</li> <li>・ 飯田市のイベントと連動して実施するため<b>飯田市との事前調整</b>を綿密に行った。</li> </ul>

### ・状況写真



### ・配布資料 ※配布資料及び実施計画書については参考資料に掲載

- ① 実施計画書
- ② 飯田市おはなしマップ
- ③ 災害伝承パネル（36 災害、58 災害、H18 災害、36 災害体験者のお話、民話）

### (3)実施イベントのまとめ

#### ① 参加者の感想

- ・ 写真が多く分かりやすく、過去の災害について再認識したという意見が多かった。
- ・ 時間が無くてゆっくり見れなかったので、他の場所での開催希望も見られた。

#### ② 主催者・運営スタッフによるふりかえり

- ・ 赤十字奉仕団大会でも安全大会でも、参加者の防災への意識が高く、パネルの内容に興味を持ってもらうことができ、飯田市のイベントにあわせてのパネル展開催に評判も良かった。
- ・ パネルの内容として写真を多くし、説明文を少なくすることで誰にでも気軽に見てもらえる内容となった。また詳しい説明を必要とする人に対しては、口頭で説明を行ったことにより理解が深まった。
- ・ パネル展のスペースが少なく、パネルを見る時間がイベントの休憩時間と限られているため、一度に大勢の人が集まり、見たいパネルが見れないような状況であった。
- ・ 飯田市で関心の高い **36** 災害をメインとして扱ったことにより、パネル展自体の関心が高まり、**36** 災害以外の災害についてもパネルを見ていただくことが出来た。

#### ③ 今後の方針について

- ・ 短時間で大勢の人に内容を伝えるための工夫（パネルの見せ方、レイアウトなど）。
- ・ 参加者の興味を引くには、災害の写真などを多く掲示する必要がある。
- ・ 災害伝承ビデオをより分かりやすく伝えるためには、災害時の映像や地図、テロップなどの工夫が必要である。
- ・ 今回扱ったパネルの内容としては、過去の災害概要が主だが、防災知識を身に付けることの出来るような内容を入れ、災害教訓を周知するとともに今後の災害のための知識の普及を行う。
- ・ パネル展示だけでなく、メインイベントの内容にあわせて災害伝承ビデオ、災害伝承カルタの利用も検討する。
- ・ 過去に災害体験をしている参加者が多いような場合は、過去の災害写真などを多く用い昔の経験を思い出してもらい、ヒアリングするような場を設けるなどして訴求効果を高めることが出来る。
- ・ 主催者との連携を強くし、パネル展示以外にもステージでの発表に少し時間を頂くなどの工夫により、さらに理解を深める。
- ・ 他イベントとの連動企画であるため、しっかりとした時間が確保できない場合は伝えたい情報を冊子やチラシにまとめて配布し、イベント後に見てもらうことが有効であると思われる。
- ・ 毎年同じイベントと連動してパネル展を行うことによって、イベントの一部として認識をしてもらう。



## 7-5. 天竜川防災カフェ

### (1)実施概要

実施主体	天竜川上流河川事務所、飯田市美術博物館
テーマ	飯田市美術博物館で気軽に立ち寄れる防災イベント  <b>午前の部</b> ：朗読会やパネル展示で災害や防災について触れてもらうとともに、専門家による座談会への参加を通じて、自らも災害や防災について考えてもらうこと <b>午後の部</b> ：おはなしやゲームなど親しみやすい題材を通して災害や防災について触れてもらい、災害や防災について考えるきっかけを生み出すこと
キーワード	防災カフェ、民話・伝説、美術博物館、災害伝承カルタ
実施内容	地域の一般の人たちが集まる飯田市美術館のオープンスペースを利用し、気軽に立ち寄れる防災イベントを実施することにより、防災にあまり興味のない子育て世代、働き盛り世代にも災害教訓伝承を行う。
訴求対象	<b>午前の部</b> ：働き盛り世代、高齢者 <b>午後の部</b> ：子供、子育て世代
参加人数・属性	<b>午前の部</b> ：約 20 人 <b>午後の部</b> ：約 30 人（子どもの参加者も含めて） アンケート回答者数 22 人 【性別】アンケートに回答していただいた方の 76%が男性であったが、アンケートに回答していない方は女性が多かった。 【年齢】30代が 33%と最も多いが、10代～70代まで幅広い年齢層が参加している。 【職業】一般企業に勤めている会社員の方と自治体に努めている公務員の方がそれぞれ半数を占めている。
実施日時	2008年11月29日(土) <b>午前の部</b> 10:00～12:00 <b>午後の部</b> 14:00～16:00
実施場所	飯田市美術博物館
伝承素材	飯田おはなしマップ、濁流の子、災害体験談、石碑 かいくらが淵の大蛇、伝承カルタ、防災クイズ
連携団体	笹本正治信州大学教授 飯田エフエム放送株式会社
期待した効果	<b>午前の部</b> ：「気づき」→「正しい理解」 <b>午後の部</b> ：「無関心」→「気づき」

## (2)実施にあたっての準備

地域への働きかけ	飯田市美術博物館から関係機関への参加呼びかけ 飯田市立図書館へのイベント紹介
参加者の募集方法	HPでの募集（天竜川上流河川事務所 HP、飯田市美術博物館 HP） 飯田エフエムの番組放送による告知 飯田エフエムの番組出演による告知 飯田市立図書館での募集チラシ配布
企画・準備にあたり留意した点、工夫した箇所	<ul style="list-style-type: none"> <li>午前と午後で訴求対象が異なるため、働き盛り世代や高齢者には天竜川上流河川事務所および飯田エフエムの HP から募集を行い、子育て世代にはいいだ FM や飯田市立図書館を利用して募集を行うなど様々な主体や媒体を通じて行った。</li> <li>誰でも気軽に集まれる場所として美術博物館のオープンスペースを選択し、お茶を飲みながらイベントを楽しんでもらえるような雰囲気作りを行った。</li> </ul>

## (3)実施内容詳細

### ・当日スケジュール

時間	プログラム	内容	説明者
9:30	受付開始		
10:00	オープニング	会の趣旨説明	飯田エフエム放送株式会社
10:10	朗読会 +座談会	飯田市に伝わるおはなしを朗読しながら、パネリストを招いての座談会 ①『飯田市に伝わる災害おはなしマップ』のおはなし朗読とイメージ映像の上映 ②『飯田市に伝わる災害のおはなし』の朗読と、イメージ映像の上映 ③天竜川流域の石碑について	パネリスト： 笹本 正治氏 (信州大学人文学部教授) 松島 信幸氏 (飯田市美術博物館顧問)
12:00	終了		
13:30	受付開始		
14:00	オープニング	会の趣旨説明	飯田エフエム放送株式会社
14:10	朗読会	『飯田市に伝わる災害のおはなし』の朗読と、イメージ映像の上映	飯田エフエム放送株式会社
14:40	カルタ会・カルタ作成体験	親子参加の伝承カルタ会を行う。	
15:10	防災クイズ大会	防災に関するクイズ大会を行う。 クイズは防災に関する簡単な知識を問う。	
15:40	表彰、まとめ	防災クイズ大会、カルタ会の成績優秀者を簡単に紹介し表彰する。	
16:00	終了		

## ・状況写真

	
笹本先生と松島先生の対談	災害おはなしの朗読
	
午後の部 防災クイズの様子	午後の部 伝承カルタ大会の様子

## ・配布資料 ※配布資料及び実施計画書については参考資料に掲載

- ① 実施計画書
- ② 災害伝承パネル（36 災害、58 災害、H18 災害について、民話、いいだFM 紹介）
- ③ 飯田おはなしマップ
- ④ 濁流の子
- ⑤ 飯田市に伝わる災害おはなし「かいくらが洩の大蛇」
- ⑥ 参加者募集チラシ
- ⑦ 質問シート

## ・マスコミ報道紹介

- ・中日新聞「見て聞いて天竜川の災害教訓 おはなしマップ配る」、
- ・信濃毎日新聞「飯田でぼうさいカフェ 天竜川の水害体験語り継ぐ」

## (4)実施イベントのまとめ

### ① 参加者の感想

- ・ 子供と一緒に参加できるのは良い、繰り返し行ってほしい等の意見があった。

### ② 実施イベントの考察主催者・運営スタッフによるふりかえり

- ・ 午前の部に関しては、参加者からパネリストへの質問コーナーを設けたことにより会場が一体となってイベントを進めることができ、午後の部に関しては、子ども向けにカルタ大会やクイズ大会を行ったので、家族みんなで楽しめる内容となっていた。カルタ作成コーナーでは、カルタを作成する中で家族みんなが防災について考えることが出来ていた。家族連れの場合は子供を通じて親に伝承するという内容が好ましい。
- ・ 飯田エフエム放送株式会社と連携することにより、イベント告知を幅広い対象に行うことが出来た。また実施後もイベントの内容をラジオにて放送し、広く地域に発信することが出来た。
- ・ 飯田エフエム放送株式会社のプロのアナウンサーによる朗読など質の高い内容が提供できた。
- ・ イベントに思ったように人が集まらなかったが、このように不特定多数の人を対象にした土曜日の朝からのイベントであることを考えて、呼びかけの方法を工夫する必要がある。特に午後の部は家族を対象にしていたので、小学校での呼びかけなどが有効であったと考えられる。

### ③ 今後の方針について

- ・ 休みの日に人が集まりやすい場所、時間を考慮に入れ、イベント開催の場所や時間を考える。
- ・ 参加者に内容が伝わったかどうか、アンケート以外に感想をインタビュー形式でヒアリングするなどの工夫が必要である。

#### 【午前の部】

- ・ 災害おはなしの朗読は、ただ聞いているだけでは参加者が退屈してしまうのでイメージ画像や話の内容を映像として流すなど工夫が必要である。

#### 【午後の部】

- ・ 防災クイズの内容は子ども達だけでも分かるように、少し平易な内容とする。
- ・ 伝承カルタは内容が難しく子どもたちに伝わりにくいので、子供用には視点を変えて少しわかりやすい内容とする。
- ・ 家族連れを対象にする場合、家族で楽しめる内容にするべきであるが、家族で防災について話すきっかけとなるように工夫が必要である。
- ・ 家族連れが集まるような他のイベントとの連携。